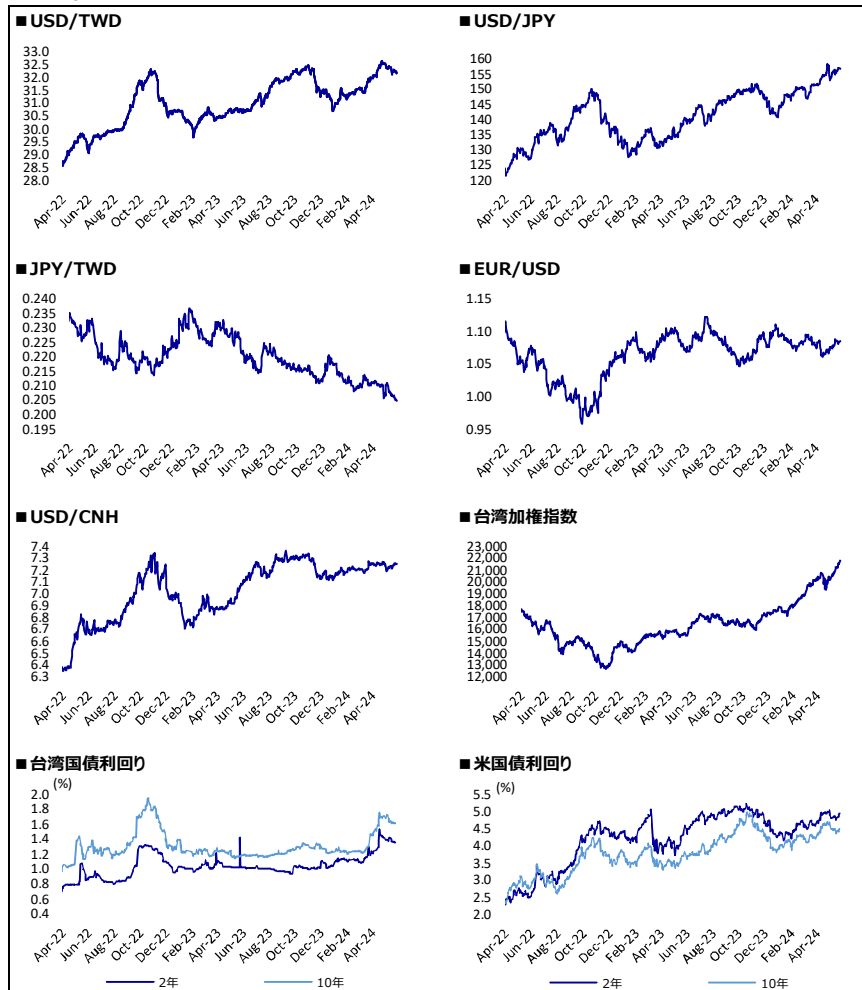


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初5/20は32.220でオープン後、賴清徳新総統の就任演説が実施されたが、金融市場への影響は限定的。外国人投資家による台湾株売りが少額見られ、32.20台半ばまで上昇した。5/21は、前日海外時間に複数のFRB当局者より「インフレが持続的に2%目標に回帰しつつあるとは断言できない」と慎重なスタンスが示されていたことを受けて、米金利が上昇する中、ドル買い圧力が強まり一時32.330まで上昇した。5/22は、米国における早期利下げ観測が再燃する中、ドルが売り戻され32.20台後半で上値重く推移した。5/23は、前日海外時間に米半導体大手より強気な売り上げ見通しが発表されたことを受けて、台湾の輸出回復への期待感が高まったことで、台湾ドル買いが進み一時32.213まで下落した。5/24は、前日海外時間に米国株が下落していたことを背景にリスクセンチメントが悪化し、台湾ドル売りが優勢となり32.30近辺まで上昇。その後は輸出業者による月末の外貨売りが見られ、32.25近辺で上値重く推移した。最終的には前週比0.2%ドル高台湾ドル安の32.258で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は451.2億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初5/20は155.57でオープン後、海外時間に米新規社債発行がアナウンスされると、需給環境悪化への懸念から米金利が上昇。ドル買いが進み156円台前半まで上昇。5/21は、海外時間にFRB理事のウォーラーより「最新のインフレ指標は安心できるものだが、利下げ開始前にと数か月間待つのが賢明」との見立てが示されたことで9月の利下げ開始観測が高まり、ドル売り圧力が強まり156円近辺まで下落した。5/22は、日4月貿易収支が市場予想を下回る結果となり、日本の貿易赤字拡大懸念が高まった他、海外時間に発表されたFOMC議事録ではインフレ緩和に「予想より時間がかかる」との見立てが示されたことで、ドル買いが進み156円台半ばまで上昇。5/23は、発表された米雇用指標が前回対比改善していたことや、米5月PMI景況感指数が市場予想を上回る結果で発表されたことを受けて、ドル買いが進み一時157.19まで上昇した。5/22は、介入への警戒感と円金利の高止まりを背景に157円近辺で上値重く推移した。最終的には前週比0.9%ドル高円安の156.97で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.900-32.200
今週は上値の重い推移を見込む。賴清徳新総統就任後、その金融市場への影響は見られない。台湾株投資資金流入や、月末の輸出業者によるドル売りが後押しとなり、上値が重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：155.00-158.00
今週は揉み合いの推移を見込む。6月初旬に中銀イベントが控える中、様子見姿勢が強まり、方向感に乏しい展開となるであろう。

今週の予定

5/27 (MON)	
5/28 (TUE)	日4月サービスPPI、米5月カンファレンスボード消費者信頼感指数
5/29 (WED)	
5/30 (THU)	米第1四半期GDP、米第1四半期PCE
5/31 (FRI)	日5月東京都部CPI、日4月失業率、米4月PCE

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。